

# 遙か天空に広がる高野の地に 弘法大師・空海は何を見たのか

標高約8百坪の天空の聖地、高野山。周囲を千級級の山々に囲まれた山上盆地であるが、高野山という山がある訳ではない。麓から山上を伺うことはできず、また山上から麓の明かりが見えることも無い。俗世界と隔絶し人跡まれなこの幽寂な地に、空海は真言密教の修行道場を開いた。また唐からの帰国の際、明州の浜辺から三笠を日本に向けて投げ、高野山の松の木に三笠がかかっているのを見つけこの地を伽藍建立の場所にしたという伝説も残されている。

高野山を開創するにあたり、最初に着手したのが、根本大塔や金堂などが建つ壇上伽藍である。これら塔堂の配置は、胎藏曼荼羅の世界を立体的に表現しているという。根本大塔とは真言密教の根本道場におけるシンボルであり、空海と真然大徳、二代を費やし完成され、多宝塔様式としては日本最初のものといわれているが、空海はその完成を見ることはなかった。奥之院は壇上伽藍と並び、高野山の信仰の中心であり、空海が今も深い禅定に入っているとされる聖

域。樹齢千年にも及ぶ杉木立の中を歩く参道沿いには、おおよそ20万基を超える諸大名の墓石や慰霊碑が立ち並んでいる。高野山は「山境内地」といい、いわばひとつの大きなお寺であることを意味する。境内を歩いていると、必ずどこからともなく誦経の音が聞こえてくる。そこは空海が望んだ、宗派の差も敵味方もない、平和な世界である。夏なお涼しい高野山、約1200年前ここに辿り着いた空海が見た空も、青かったのだろうか。



弘法大師坐像(萬日大師)>室町から桃山時代に作られた(金剛峯寺蔵)。弘法大師とは空海の諡号で醍醐天皇から高徳をしのんで贈られた。

Landscapes  
who loved wakayama

根本大塔内>中央に鎮座するのは、胎藏界の大日如来。周りには金剛界の四仏が取り囲み堂内そのものが立体的曼荼羅として構成している。金胎不二という空海の教えを伝える。

奥之院参道>約20万基を超える墓石や祈念碑、慰霊碑の数々が建つ約2キロメートルの参道。その信仰の道の辿り着く先は、入定信仰を持つ弘法大師空海の御廟である。

壇上伽藍での読経>壇上伽藍に点在する堂宇ひとつひとつに手を合わせ誦経の声を合わせる僧侶たち。足早に移動するその所作には一切の無駄がなく、美しい。